

る。しかし、ヒナノシヤクジョウやホンゴウソウのような菌従属栄養植物は、一般に開花期と結実期が短く、それ以外の期間は地上に姿を見せない。このことから、人目につきにくいことにより既に調査が行われている土地でも見逃されている可能性があるほか、知らず知らずのうちに消失している可能性もある。近年、ラン科の菌従属栄養植物であるタシロランが岡山県で初記録された例（難波，2023）では、自然遷移の進行と里山の衰退がタシロランを含む森林の下層植物の増加に影響を与えている可能性が示唆されている。

今後の地域植物相の解明や希少な菌従属栄養植物の保全に向けて、引き続き記録と知見の蓄積が期待される。

謝 辞

本報告の執筆にあたり、倉敷市立自然史博物館の鐵慎太郎氏には標本資料の確認へ協力していただき、狩山俊悟氏には岡山県内における両種の分布情報と有益な助言を頂いた。この場を借りて感謝申し上げる。

引用文献

特定非営利活動法人野生動物調査協会・特定非営利活動法人Envision環境保全事務所, 2007-. 日本のレッドデータ検索システム. <http://jpnrdb.com/>, 2023年11月13日閲覧.

長谷川泰洋・吉野奈津子・杉山晃, 2019. 菌従属栄養植物ホンゴウソウ、ヒナノシヤクジョウの生育環境特性. 環境経営研究所年報(18): 36-43. 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学環境経営研究所.

狩山俊悟, 2000. 岡山県初記録のホンゴウソウ. しぜんくらしき(32): 24. 倉敷市立自然史博物館友の会.

片岡尚也, 2022. 絶滅危惧Ⅰ類の多年草 ヒナノシヤクジョウ自生. 山陽新聞東備版2022年（令和4年）8月9日, 26. 山陽新聞社.

小橋理絵子, 2005. 岡山県2カ所目のホンゴウソウ偶然発見記. しぜんくらしき(52): 2. 倉敷市立自然史博物館友の会.

環境省, 2020. 環境省レッドリスト2020.

<https://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>, 2020年3月27日発表(環境省報道発表資料); 2023年11月13日閲覧(環境省ホームページ).

光野・西部技術コンサルタント株式会社, 2020. 改訂版 岡山県表層地質図.

難波靖司, 2023. 岡山県におけるタシロラン（ラン科）の初確認記録. 岡山県自然保護センター研究報告(30): 74-77. 岡山県自然保護センター.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2015. 改定新版 日本の野生植物 1. 666pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2016a. 改定新版 日本の野生植物 2. 640pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2016b. 改定新版 日本の野生植物 3. 604pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2017a. 改定新版 日本の野生植物 4. 608pp. 平凡社.

大橋広好・門田裕一・邑田仁・米倉浩司・木原浩(編), 2017b. 改定新版 日本の野生植物 5. 760pp. 平凡社.

岡本泰典・岡本東美・狩山俊悟, 2019. 岡山県初記録のヒナノシヤクジョウ.しぜんくらしき(108): 11-12. 倉敷市立自然史博物館友の会.

岡本泰典, 2013. 総社市内でホンゴウソウを発見. しぜんくらしき(87): 5. 倉敷市立自然史博物館友の会.

岡山県(岡山県野生動植物調査検討会(編)), 2020. 岡山県版レッドデータブック 2020 植物編 1 維管束植物.29-326. https://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/656841_5702311_misc.pdf, 2023年6月13日更新; 2023年11月13日閲覧(岡山県環境文化部自然環境課ホームページ).

山尾僚・波田善夫, 2008. 岡山県岡山市で発見されたホンゴウソウ（ホンゴウソウ科）. Naturalistae(12): 41-44. 岡山理科大学.

米倉浩司・梶田忠, 2003-. 「BG Plants 和名－学名インデックス」（YList）. <http://ylist.info>, 2023年11月13日閲覧.

岡山県自然保護センター研究報告 Bull. Okayama Pref. Nature Conservation Center(31): 23-26, 2024.

短 報

倉敷市で記録されたヒナコウモリの繁殖地

矢掛町 江木 寿男
岡山市 山田 勝

Notes on breeding colonies of *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880) recorded from Kurashiki City

Hisao Egi, *Yakage-town*
Masaru Yamada, *Okayama-city*

キーワード:ヒナコウモリ, 記録, 岡山, 繁殖

はじめに

ヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* (Peters, 1880)は、日本と中国東部、シベリア東部、朝鮮半島に生息するヒナコウモリ科のコウモリである（岡山県野生動植物調査検討会編，2020）。岡山県内では岡山市中区雄町の鉄道架橋で山田（2008）により繁殖地が報告され、本種が岡山県内で繁殖していることが確認された。今回、これとは別場所の倉敷市内において本種の繁殖地が確認されたのでここに報告することとした。

確認の経緯

2023年7月10日の午前7時30分頃、筆者の一人である江木が倉敷市真備町川辺の鉄道高架横の道路を自動車にて通過中にコウモリ類のものと思われる鳴き声と地上に大量の糞があることを確認した（写真1；写真2）。用事を済ませた夕方17時ごろに双眼鏡で確認したところ鉄道高架天井の東西2か所の隙間に多数のコウモリ類がひしめいているのを確認した。当地の約2-5 km西方では越山他（2016）、越山他（2018）によりアブラコウモリ *Pipistrellus abramus* (Temminck, 1840)とヤマコウモリ *Nyctalus aviator* Thomas, 1911の生息が報告されているが、上記2種ではない可能性を感じたため、2023年7月20日に直し調査することと

した。

2023年7月20日の18時ごろに江木と山田の2名で現地を訪れたところ、コウモリ類は鉄道高架天井の東西2か所の隙間に視認できる範囲だけで東の隙間140頭、西の隙間164頭、合計304頭が確認された（写真3）。ただ、この時点では隙間の奥の個体は視認が難しく、実際より過小な頭数しか確認できなかった。

種の識別結果

観察時に1頭が西の隙間から脱落してきた（写真4；写真5；写真6；写真7；写真8）。しばらく地上を匍匐していたが、力尽きて動かなくなり死亡した。この個体は背と腹が擦れて毛が脱落していた。その個体を計測したところ、前腕長（左）49.3 mm，前腕長（右）49.7 mm，頭胴長62.2 mm，尾長34.8 mm，体重20.3 gであった。他に顔は幅広で黒く鼻端は平坦なこと、耳介は幅広く先端は丸いこと、耳珠は幅が広く前縁の高さと同程度、乳頭は1対などの特徴が認められた。以上の外部形態的特徴からコウモリの会編（2011）の検索表に従い同定したところ、ヒナコウモリと同定された。念のため、さぬき市在住の川口敏氏に同定を依頼したところ、頭骨の形態からもやはりヒナコウモリと同定されたとのことであった。また、陰茎が認められず乳頭周辺が肥

大し突出していることから授乳中のメス成獣と判断された。おそらく当地の隙間で繁殖活動を行っていたが、エネルギーを使い果たして死亡したものと推察された。

出巢調査結果

ヒナコウモリが繁殖地として当地を利用しているとすれば、日が暮れると成獣は餌をとりに行き、幼獣は繁殖地の隙間内で親の帰りを待つことが予想された。そこで、日が暮れて何頭が出巢して、コロニー内に何頭が残っているか調査することとした。ちなみに、この日の暦上の日没時刻は19時16分であった。

19時12分に最初の1頭がねぐら立ちしていった。しばらくして19時30分ごろから連続的にねぐら立ちしはじめ、19時46分までに東の隙間から174頭、西の隙間から230頭、合計404頭が出巢していった。19時46分には出巢する個体がなくなり、成獣の大半が出巢したと思われる。その後、隙間に残っている個体を数えたところ東の隙間で121頭、西の隙間で150頭、合計271頭が確認された。つまり、成獣幼獣あわせて少なくとも675頭が当地を繁殖地として利用していることが判明した。なお、出巢していく個体の外観を見た限りではどれも同じような大きさでアブラコウモリやヤマコウモリなど異種のコウモリ類が混成しているようには見えなかった。

おわりに

著者の知る限りでは、今回のヒナコウモリ繁殖地は岡山市中区雄町につづき、岡山県内で2か所目と思われた。先述した岡山市の繁殖地は、2012年には4346頭の出巢個体数が確認されたものの、管理方法が変更になった翌2013年には2532頭と半減し、その後減少を続け、2019年にはわずか367頭となったという（岡山県野生動植物調査検討会編、2020）。岡山市の繁殖地が減少傾向であるなか、新たな繁殖地が発見されたことは喜ばしいことである。しかし、当繁殖地の鉄道高架の下は鉄道利用者の駐車場となっており、いずれ糞害等の苦情が出れば駆除されてしまう可能性も否定できない。よく言われることではあるが、コ

ウモリ類は農業等の害虫を捕食して人類の生活に間接的に貢献してくれていることもある。設備の修繕等の際には、単に駆除するのではなく、繁殖期に駆除作業を実施しない、代替地の確保をはかるなど何らかの保全への配慮を鉄道事業者をお願いしたい。最後に頭骨での同定結果をご教授いただいたさぬき市在住の川口敏氏にお礼申し上げる。

引用文献

越山洋三・箴島玄太郎・宮竹貴久, 2018. 倉敷市の井原鉄道高架に棲むヤマコウモリ *Nyctalus aviator* の生息状況-アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* との比較. コウモリ通信23(1): 18-23. コウモリの会.

越山洋三・箴島玄太郎・園田昌司・宮竹貴久, 2016. 岡山県倉敷市でヤマコウモリ *Nyctalus aviator* を初記録-糞由来のDNAを利用した種同定-. コウモリ通信22(1): 18-21. コウモリの会.

コウモリの会編, 2011. コウモリ識別ハンドブック 改訂版. 88pp. 文一総合出版, 東京.

岡山県野生動植物調査検討会編, 2020. 岡山県版 レッドデータブック動物編. 812pp. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山.

山田 勝, 2008. 岡山県南部においてヒナコウモリの出産保育コロニーを確認. しぜんしくらしき, 67: 11-13.



写真1. 確認された環境

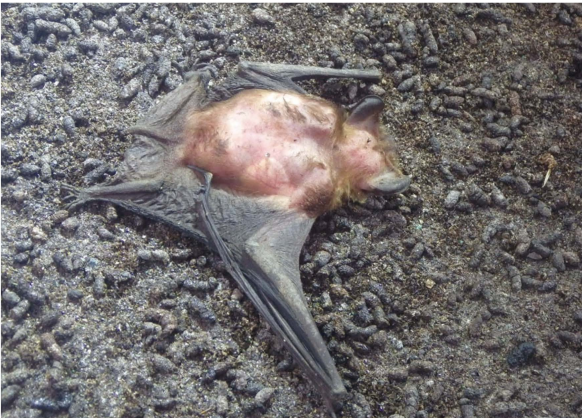


写真4. 落獣したヒナコウモリの背面



写真2. 地上の糞



写真5. 落獣したヒナコウモリの腹面



写真3. 天井の隙間にいるヒナコウモリ



写真6. ヒナコウモリの乳頭



写真7. ヒナコウモリの下半身



写真8. ヒナコウモリの顔

短 報

岡山市の重要生態系で得られた県未記録の昆虫(2022)

公益財団法人岡山県環境保全事業団 寺田 剛

Newly recorded insects in Okayama prefecture collected from important ecological sites on Okayama city in 2022

Takeshi Terada, *Okayama Prefectural Environmental Conservation Foundation, Inc.*

Abstract

The nine insect species new to the fauna of Okayama prefecture are recorded from important ecological sites on Okayama city in 2022.

キーワード: 昆虫, 岡山県初記録, ハチ目, ハエ目, チョウ目

はじめに

岡山市は、市域において重要な生態系を有する地域を選定し、2022年に「岡山市の重要生態系リスト」を公表している（岡山市，2022）。また，同年以降，（公財）岡山県環境保全事業団は，岡山市との連携協定のもとで，岡山市の重要生態系のうち，野生生物情報が少ない地域について生物調査を実施している。同調査については，2022年度の確認種一覧が公表されているが，ここではレッドリスト等掲載種や岡山県未記録の可能性のある種を含む一部の未同定種を除外している（岡山市，2023）。この未同定種のうち，標本が得られている昆虫類について精査した結果，岡山県野生生物目録2019 ver. 1. 4（岡山県野生動物植物調査検討会（編），2023）未掲載で，これ以降の県内記録もないことから，本県未記録と考えられる種を認めたため報告する。

確認記録

岡山県未記録の昆虫9種が確認された。以下に確認記録を示す。なお，いずれも採集地は岡山市内であり，採集者は著者であるため，採集地情報は区以下とし，採集者は省いて示す。また，この

9種以外に小蛾類の未記載種が1種得られているが，本種については別途新種記載予定であるため本報では取り扱わない。

ハチ目 ナガコバチ科 シロオビタマゴバチ

Mesocomys albitarsis (Ashmead)
1♀，東区邑久郷紅岸寺城跡，12. X. 2022

ハエ目 ミバエ科 ネッタイヒメクロミバエ

Spathulina acroleuca Schiner
1ex.，東区宝伝宝伝海水浴場，12. X. 2022

チョウ目 ヒロズコガ科 クロスジキヒロズコガ

Tineovertex melanochryseus (Meyrick)
1♂，北区御津河内母谷，7. VII. 2022